

印西大師 番外 師戸・観音堂（城ノ内堂）

- 1 名称 (No.173/258) [手引鏡：城ノ内堂(しやうのうち)] [資料館：○印] [行程表：観音堂]
- 2 場所 印西市師戸2972付近
西台堂から道程約360m 堀込堂から道程約140m 広福寺から道程約360m
願船漆工房の西の階段を上った観音堂の隣
GPS座標 35.761548, 140.185486
- 3 由緒
- 4 御堂 大師堂の中に丸彫りの御大師様が1体あり。
- 5 境内 大師堂の隣に観音堂がある。周囲に石造物がたくさんある。民家の敷地内と思われるが、御堂に参拝できるよう道路側に階段があるので、そこから入れる。
- 6 写真 (2022.09、2022.10撮影)



大師堂



御大師様



大師堂



観音堂の階段



観音堂



大師堂（左）と観音堂（右）

7 情報

(1) 四国八十八ヶ所 第13番 大日寺 御詠歌

阿波の国 一の宮とや ゆうだすき かけてたのめや この世後の世

四国八十八ヶ所 第13番 真言宗大覚寺派 大栗山(おおぐりざん) 花蔵院(けぞういん)

大日寺(だいにちじ) 本尊 十一面観音菩薩 (徳島県徳島市) 写し

(2) 遷座

「印西八十八ヶ所手引鏡」に、「(表紙裏書・異筆) 十三同(番) 中木戸 師戸 しろのうち」との記載がある。また、印旛歴史民俗資料館の「印西大師順路図」には「第13番 風間 大日堂 師戸城ノ内より遷座す遷座年月は不詳」、「本番札所の協議をされたのは昭和十年代当初と推察されます」との記載がある。ここでいう「しろのうち」及び「城ノ内」というのは城ノ内堂の

ことと思われる。

なお、明治39年の梶原納経帳には第13番札所は師戸城之内・観音堂とあるので、遷座となったのはやはり昭和10年代当初のことだろうか。

(3) 現地調査 (2022.09)

御堂を管理されている男性（観音堂の西隣の方）からお話を伺うことができた。この方のご先祖様は師戸城内に住んでいた。それで現在でも「城ノ内」が屋号になっている。大師堂の傷みが激しかったので昨年（2021年に）新築した。費用はこの方が負担したそうだ。（隣の観音堂も新しかったが費用負担については聞き漏らしてしまった。）中の御大師様はきれいになっていたが、昔のものとのこと。昔は印西大師の番号（番付）が付された札所だったが、白井に移ってしまい、今は番外の札所となっているとのこと。

大師堂の隣に新築の観音堂があるので、札所名が「観音堂」であるが、全体をまとめて「城ノ内堂」と呼んだほうがよいのではないかと思った。

(4) 願船漆工房 (2024.02)

観音堂から道を隔てた東側に願船（がんせん）漆工房があります。元東京芸大教授の大西長利先生による漆工芸の工房です。午前中にお伺いしたので先生はまだ工房に来ておらず、お弟子さんの福多さんからお話を伺いました。ウルシと聞くと尻込みしてしまいますが、特に敏感な人でなければ大丈夫のようです。敷地内にはたくさんのウルシの木が植えられていて、樹液を採取しているようですが、それだけではとても足りないようです。ウルシの芽や実は食べても美味しいそうです。工房の中は、漆を使った美術品・漆工芸品がたくさん展示されていました。木製の器に漆を塗って作るのではないので非常に軽く、造形が多様です。塗って乾かし、また塗っての繰り返しですので手間も日数もかかるので、安いものでも数万円するようです。

事前に連絡もせず突然訪問したのに、貴重な時間を割いていただき、たいへん丁寧にお話をしてくださいました。ありがとうございました。今度伺うときは事前に予約してからにします。



工房



庭



ウルシの木と実

○願船漆工房のホームページ <http://www.urushi-gansen.com/index.shtml>

○個展 福盃の宴 2024 <https://koten-navi.com/node/171267>

2024.02 一部修正